

目白庭園 [参考資料]

○ 所在地

東京都豊島区目白 3-20-18

〒171-0031

○ 概要

豊島区の都市化、国際化が進む中で、より潤いのある街づくりの一環として建設されたのが豊島区立目白庭園です。目白庭園は、池泉回遊式の庭園で、池の周囲をめぐることができます。

庭園内には、雑誌「赤い鳥」を由来にした木造瓦葺平屋建ての数寄建築の「赤鳥庵」や、六角浮き見堂が配されています。庭園内には四季折々の様々な自然の表情を満喫できるよう草木が配植されています。都会の喧騒の一角に造られた貴重な空間です。[目白庭園 WEB より抜粋]

目白庭園は、豊島区の都市化、国際化が進む中で、みなさまが自然に接し、伝統文化を育む場として活用していただくために、平成2年11月に、わが国の伝統的な技と匠を結集して建設されました。この庭園は、限られた空間に日本人の自然に対する思想を凝縮した日本庭園で、園内の中央に大きな池をつくり、水ぎわに石垣を築いてその上に「赤鳥庵」を配しています。「赤鳥庵」は、京都の北山杉を用いた木造瓦葺き平屋建ての数寄屋建築で、水面にその優雅な姿を映しています。園路は回遊式で、池の周囲をめぐりながら随所に自然の造形美に出会えます。水辺に近い飛び石からの眺めや滝見台からの眺めは景観を一変させ、同じ庭園とは思えない変化を楽しませてくれます。[豊島区 WEB より抜粋]

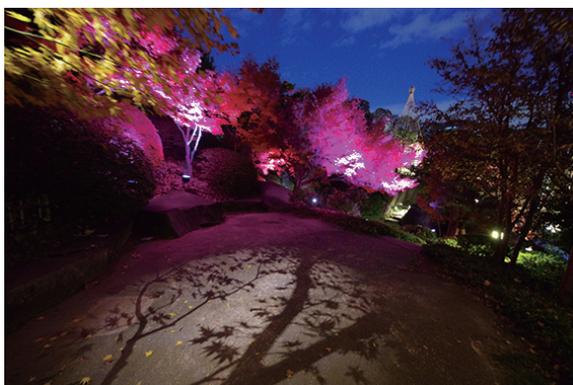
○ 昨年のライトアップ [参考写真]



入り口付近から池越えに石塔付近を望む



入り口付近から池越えに奥を望む



奥から池を望む



奥の分岐から雪釣りを含めて池を望む

目白庭園 [参考資料]

大きな池の周囲をまわって鑑賞する池泉回遊式庭園。

伝統のかたちは大切にしつつも、宗教観や過去の形式にとらわれず、日本人の自然観や美意識に調和した現代の庭としてつくられた。

入園無料の公園として多くの人々が憩う場の役割、また、茶室「赤鳥庵」を使用する人のための茶庭としての役割を持つ。

目白庭園らしさ

●起伏に富むつくりになっており、歩くに従い視線が上下に変化する。

- ・下からカエデや雪吊りを見あげる景観
- ・上から池に写りこみカエデや赤鳥庵を眺望する景観

●石組みに使われた石は 860t。寄せ集めの石ではなく、一つの山の岩盤から取りはずしているため、荒々しくもまとまりのある石組みである。小さな庭園ながら野趣あふれる石組みは雄大な景観を作り出している。

- ・滝：深い溪谷を連想させる巨石の石組み。頂上の石は神々しい何かに見下ろされているような感覚をもつ。
- ・島、護岸石組：庭に力強さをもたらし、遠近感、立体感を感じさせる。
- ・州浜：浜辺をあらわす（池が海を表す）。水が滝～小川～海へたどり着く最終地点。荒々しい島や護岸石組みと異なり、州浜周辺の水辺は静けさと落ち着きを感じる。
- ・石塔：人の視点が集まるポイント。庭には様々な要素があるが、石塔が視点を集めることで、庭景観がぼやけず引き締まる。

●石や植物と異なり、唯一動きのある景観が水。滝からは毎分 3t の水が勢いよく流れ出る。その先には、落ち着いた流れでチョロチョロ音を立てる小川、そして、暗闇では鏡のように映る静かな池。この水の一連の姿が、限られた空間に凝縮されている。

日本庭園の要素・ポイント【参考資料】

日本庭園とは、限られた空間に雄大な自然景観を人工的に作ったもの。宗教的な目的で、もしくは遊興のため、権力の証として、もてなしの場としてつくられてきた。

作庭家は庭のテーマに基づき、水や石をさまざまなものに見立てる工夫をほどこしている。(見立てる = 意味をもたせる。例：3つの石組みで阿弥陀如来を表す<三尊石>など)

●水

海に囲まれ多くの川が流れる国土にすむ日本人にとって自然・命の象徴であり、神聖なもの。また、湧き水から川となり海へと水が変化の様は「輪廻転生」の象徴。

○小川：平安貴族は川に盃を流し、盃が自分の前に流れるまでに歌を詠み、盃の酒をのみほすという遊びをしていた。(曲水の宴)

○滝：日本の自然風景の縮図。

○池：海を表す。あの世とこの世の境目を示すことも。

●石

○石塔：もともと仏教の考えから用いられた。偶数は縁起が良くなく、奇数個の層を重ねる。

○石組み：「死」への恐れ → 不老長寿の仙人がいる山(蓬莱山)に見立てた蓬莱石、長寿の象徴「亀」や「鶴」を見立てた亀石、鶴石 など

○手水鉢：もともと神社にお参りする前に身を清める水盤舎(すいばんじゃ)が発端。茶室に入る前に身を清めるため、茶庭(露地庭)に用いられるようになった。

●植物

○松：季節変化が見られない、変わらない → 不老長寿の象徴

○竹：折れにくく成長が早い → 生命力の象徴

○梅：今は「花見」といえば桜、昔は梅。春を知らせる花。

○茶花：茶室のための庭によく植えられる。季節を示す花々。

●その他

○枯山水：禅寺に多い。水を用いずに、小石で水景観を表現する。儀式を行うために白砂(清浄なもの)を敷き詰められた庭から発展し、座禅の場としてつくられるようになった。

○芝生：明治から日本庭園にも用いられるようになった。

●目的

○信仰のため(不老長寿や浄土)：浄土式庭園、寝殿造り庭園

○遊興のため：寝殿造り庭園、大名庭園

○禅の修業のため：寺院の庭園

○茶のため：露地庭